

月経周期不順妊娠に関する疫学調査

山形大学医学部産科婦人科学教室

集計責任者 廣 井 正 彦

1. 調査目的

月経不順の中には無排卵症や黄体機能不全などで妊娠しにくい条件が具わっているが、もしこのような月経不順の婦人が妊娠した場合には、卵巣の発育不全による妊娠前および妊娠初期の内分泌環境の変化、卵胞期の延長に伴う変性卵の排卵による受精、黄体機能不全などの場合には着床期の内分泌異常などが考えられ、これらによる児への何らかの障害をもたらすものと考えられる。この因果関係を臨症的に検討することを目的に調査した。

2. 調査方法

当研究班にて作成した月経不順例および年齢などその他の所見が同一で月経周期の順調なコントロール例の妊娠、分娩、児の所見などのアンケート用紙を配布し、回答をえた9機関762例につき分析を行なった。

3. 調査成績

(1) 各機関別の報告と児死亡数(死産を含む)および奇形発生率

月経不順例では死産を含めた児の死亡例は16例(2.09%)に比し、コントロールでは8例(1.04%)、児の奇形例は不順例で24例(3.13%)に比してコントロールでは12例(1.56%)と死産、奇形ともコントロールに比して月経不順例に多くみられた。男女の性別については判明しているものでは、月経不順例では男子382対女子361、月経順調例では男子366対女子384と、両者ともとくに男女の比に大きな差はなかった(表1)。

(2) 児の奇形例の内容

月経不順例およびコントロール例での児の奇形は表2・3のごとく、年齢は22才より31才に及び、奇形の種類も四肢の末梢より心奇形、無脳児とほぼ全身に及んでいる。

表1 月経周期不順例の児に及ぼす影響

(1978)

病 院 名	症 例 数		児の死亡(死産を含む) 数 (%)		児の奇形数 (%)		児 の 性 別					
							男		女		記 載 な し	
	不 順	順 調	不 順	順 調	不 順	順 調	不 順	順 調	不 順	順 調	不 順	順 調
北海道大学	135	135	4(3)	2(1.5)	2(1.5)	4(3.0)	76	86	56	47	3	2
東北大学	138	138	0(0)	0(0)	7(5.1)	4(2.9)	71	61	67	77(1)	0	0
山形大学	68	68	1(1.5)	1(1.5)	0(0)	0(0)	27	31	39	37(1)	2	0
福島医大	21	21	0(0)	0(0)	1(4.8)	0(0)	8	11	10	9	3	1
東京大学	60	60	3(5)	1(1.7)	2(3.3)	1(1.7)	33	29	27	30	0	1
金沢大学	32	32	0(0)	0(0)	4(12.5)	1(3.1)	11	16	21	16	0	0
京都大学	105	105	5(4.8)	2(0.5)	3(2.9)	0(0)	51	41	46	61	8	3
京都府医大	26	26	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	13	16	11	10	2	0
広島大学	177	177	3(1.7)	2(1.1)	5(2.8)	2(1.1)	92	75(2)	84(3)	97	1	5
合 計	762	762	16(2.2)	8(1.1)	24(3.13)	12(1.56)	382	366(2)	361(2)	384(2)	19	12

() 多胎例

表2 月経周期不順例より分娩した児の奇形例の分析

(1978)

部位	No.	奇形の種類	母親の 年齢	最長月経 周期日数	児の 性別	妊娠中の 経過	Apgar score	在胎週数
頭・ 頸・ 顔 部	1	無脳児・ASD	31	40	♀	—	8	41
	2	無脳児	22	50	♂	貧血	/	26
	3	Down症候群	33	35	♀	—	9	37
	4	斜頸	22	60	♀	—	10	40
口・ 口 腔 部	5	舌小帯	22	40	♀	—	7	41
	6	舌小帯	26	50	♀	切迫流産	8	39
	7	舌小帯	32	55	♂	貧血	9	41
	8	口唇・口蓋裂	27	60	♂	切迫流産	8	38
	9	口蓋裂	28	45	♂	—	10	38
	10	口蓋裂	28	47	♀	—	10	39
胸 腹 部	11	心奇形	26	40	♂	—	8	40
	12	心奇形	30	50	♂	—	7	40
	13	心奇形	29	36	♂	—	9	39
	14	心奇形(PDS)	26	70	♂	—	10	38
	15	左多嚢胞腎	24	40	♀	切迫流産	9	40
四 肢	16	外反足	26	28	♀	—	8	39
	17	外反足	24	40	♂	—	10	37
	18	内反足	29	60	♂	—	10	40
	19	多指症	23	50	♂	—	/	38
	20	多指症	29	180	♀	—	7	/
	21	多指症	27	30	♂	—	8	39
皮 膚	22	色素母斑	30	60	♀	—	8	41
	23	色素母斑	25	60	♂	—	10	40
	24	血管腫	24	40	♂	—	9	39

表 3 月経周期不順のコントロール例 (月経順調例) より
分娩した児の奇形例の分析

(1978)

部位	No.	奇形の種類	母親の年齢	児の性別	妊娠中の経過	Apgar score	在胎週数
頭・顔 口腔	1	無脳児	26	♂	—	1	30
	2	舌小帯	34	♂	切迫流産	9	39
	3	口蓋裂	24	♀	—	9	39
耳	4	副耳	31	♂	—	10	38
	5	内反足	25	♀	中毒症	8	40
四肢	6	内反足	28	♂	—	9	39
	7	外反足	26	♂	中毒症	8	41
	8	外反足	24	♀	—	10	39
皮膚	9	外反足	26	♀	—	9	40
	10	色素母斑	27	♀	—	8	40
	11	血管腫	30	♀	—	10	41
	12	脂肪腫	28	♂	—	9	39

表 4 月経周期の妊娠・胎児に及ぼす影響

(1978)

発 生 率	月経不順 (%)	月経順調 (%)
妊 娠 中 毒 症 発 生 率	92/762 (12.07)	80/762 (10.50)
多 胎 妊 娠 発 生 率	3/762 (0.39)	3/762 (0.39)
死 産 率 (死産数/全分娩数)	16/765 (2.09)	8/766 (1.04)
奇形発生率 (奇形数/全出生児数)	24/765 (3.13)	12/766 (1.56)

(3) 母親の年齢と児の奇形との相関について

月経不順例では19才以下の分娩11例中奇形は1例もみとめなかったが、20～29才では、573例中19例(3.3%)と最も多く、ついで30～39才で5例(2.8%)とみとめた。一方、月経順調例では19才以下では4例中1例もみられなかったが20～29才では581例中9例(1.5%)、30～39才で174例中3例(1.7%)と各年齢とも月経不順例に多く奇形がみられた。

(4) 最長月経周期日数と児の奇形発生との相関

母親の月経不順の程度と児への障害との関係を見るために、月経周期の最長日数との関連性をみると、月経不順例では35日以内では3/101(2.97%)、36～39日で2/84(2.38%)、40～49日で7/296(2.36%)、50～59日で5/67(7.46%)、60日以上7/192(3.69%)となった。一方、月経順調例では12/762(1.57%)にみられ、月経不順例に奇形の発生頻度が増加するが、最長月経周期が長くなるにつれて必ずしも奇形の発生率が高まることはなかった。

(5) 最長月経周期日数と最短月経周期日数の差異と児の奇形発生との相関

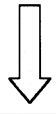
月経不順例で最長月経周期と最短月経周期日数との差が10日以内で12/330(3.63%)、11～20日で3/186(1.61%)、21～30日で5/123(4.07%)、30～50日で3/46(6.52%)と両者間の増加により児への奇形の発生頻度がやゝ増加する傾向を示した。

(6) 月経不順の児の生下時体重に及ぼす影響について

月経不順により児への発育への障害をみるために生下時体重で比較するとコントロールの月経順調例に比較して大きな差異はなく、2,500g以下の出生率は月経不順例6.54%、月経順調例6.66%であった。

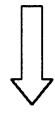
4. 考案および総括

以上の調査成績を総括すると月経不順例にやゝ奇形の発生率が増加する他、死産率、双胎発生率、妊娠中毒症発生率、低体重時出生率も、コントロールと比べての月経順調例と大きな差異がなかった。このことは月経不順例の妊娠が人では児に必ずしも悪影響を与えるものではないことを示唆しているが、今後は例数を増加して更に詳細に検討する必要があるであろう。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 調査目的

月経不順の中には無排卵症や黄体機能不全などで妊娠しにくい条件が具わっているが、もしこのような月経不順の婦人が妊娠した場合には、卵巢の発育不全による妊娠前および妊娠初期の内分泌環境の変化、卵胞期の延長に伴う変性卵の排卵による受精、黄体機能不全などの場合には着床期の内分泌異常などが考えられ、これらによる児への何らかの障害をもたらすものと考えられる。この因果関係を臨床的に検討することを目的に調査した。